

近所の彼も消防団

地域のために活動する組織でありながら「厳しき」「何をやっているのか分からない」など、その活動をあまり知らない人が多いのではないのでしょうか。消防団がどういう組織か、どのような人が活動しているのか紹介します。

問合先 防災安全課

消防士と消防団員の違い

消火活動などに関わる主な人員に、消防士と消防団員があります。消防士は常設の消防機関（消防本部・消防署）に所属する地方公務員で、消防専門の任務に就きます。一方、消防団員は普段は別の仕事をしている住民が、災害時に消防活動を行います。常勤ではないので、非常勤の特別職地方公務員と呼ばれます。

消防団は全国で2011団（2万2484分団）設置され、団員は85万6278人です（平成28年4月1日現在）。

可児市の消防団は市内各地域を4分団（16部）に分けて編成し、330人の団員が活躍しています。

消防団の活動

消防団員は、普段は会社勤めや自営業などの仕事を持ちながら、災害が発

生すると現場に駆け付けます。

火災時の消火活動をはじめ、避難誘導や災害現場の交通整理など、現場の状況に応じて活動しています。土のう積みや危険地域の巡回、近隣住民への避難の呼び掛け、行方不明者の捜索などの活動も行います。

活動は災害時の対応だけではなく、火災予防の啓発、地域の防災訓練への参加や地域行事の警備など、日頃から地域のさまざまな場面で活躍しています。災害から地域や市民を守るだけでなく、災害が起ったときに住民一人一人が行動できるよう、啓発活動にも力を入れています。



南帷子小学校での出前講座の様子

「仲間と一緒に成長」

可児市に引っ越してきて数年ですが、会社の人から、地域や近い年齢の人とつながりが持てると勧められたことがきっかけで入団しました。

入団して、火災現場に出動したり防災活動に関わることで、自分の災害に対する意識が変わってきたと感じます。

また消防団の活動を通して、何が重要なのか考える力が付いたと思います。報告をする際も、当初は気恥ずかしさもあって大きな声が出ませんでしたが、指示や報告が届けなければ危険だと分かり、周囲の視線を気にせず声を出せるようになりました。仕事で車の誘導をする際にもお客さまの安全を意識し、しっかり声を出して誘導しています。

「消防団は厳しい」というイメージを持っている人もいます。もちろん災害に関わるので現場や訓練では真剣ですが、普段は楽しく過ごしています。仕事上の付き合いではない、同じ目的を持った仲間がいるのは心強く、地域で暮らしていくために大きな力になると感じます。

会社も応援

当社は昔から可児市で店を続けており、消防団協力事業所にも登録しています。消防団を経験した従業員も多く、会社全体に活動への理解があります。

地域のための活動ですし、消防団でできた仲間は一生の財産になりますから、これからも活動をバックアップしていきます。

DATA

リビング市原商事（有）（広見）
昭和27年創業。プロの職人が選ぶ店として、電動工具、建築金物など豊富な品揃えで応えます。



リビング市原商事（有）代表取締役 市原崇光さん

地域で活躍する仲間を募集中

消防団は防災の要として地域で活躍していますが、社会状況の変化に伴い、団員の確保が難しくなっています。また、きつい、厳しいといったイメージも参加をためらう原因になっているようです。

しかし消防団は特別な人が集まっているものではありません。大切な家族や地域を守りたいという皆さんと同じ気持ちを持つ地域の住民が参加するのが消防団なのです。

地域防災に理解のある、市内在住・在勤の20歳以上の人なら誰でも消防団に参加できます。消防団活動に興味を持った人は、地元の消防団または防災安全課にご連絡ください。



公民館まつりに参加する消防団



大会の様子

訓練の成果を発揮 ～消防操法大会～

第36回可児市消防操法大会が6月18日、ふれあいパーク・緑の丘で行われました。市内16部が正確で機敏な動きを披露すると、来場した市民から大きな声援や拍手が送られました。

消防団は地域のつながりの場

消防団の役割は人助けや被害の軽減が第一ですが、同様に地域のつながりをつくる場としての役割も大切であると考えています。

消防団では同じ地域に住む、同年代の信頼のおける仲間が得られます。なかなか知り合う機会のない違う職業の人もいて、世界が広がります。消防団に加入した人のほとんどがやって良かったと言ってくれますが、これも地域や仲間とのつながりができてのことだと思います。

とはいうものの、実際にやってみないと分かりません。「きつい、厳しい」といったイメージで断る人も多く、まずは消防団について知っていただく必要があると感じています。年末夜警を見学してもらっている部もあり、実際に同じ年代の人が活動しているのを見することで、安心して入団した人もいます。

消防団は特別な人がやるものではありません。皆さんと同じ自分や家族を守りたい人が集まって、地域を守る大きな力になっています。まずは気軽に消防団について尋ねてください。市民の皆さんも、消防団を地域の一員として見守ってください。



消防団長
中島 勝雄

大会結果

優勝	第2分団第2部 (下恵土)
2位	第3分団第2部 (春里東南部)
3位	第2分団第1部 (今渡)
4位	第4分団第1部 (久々利)
5位	第2分団第3部 (川合)
6位	第3分団第3部 (帷子西部)
敢闘賞	第1分団第3部 (中恵土)
	第1分団第1部 (広見西部)

番員賞

指揮者	横井 純 (第3分団第3部)
1番員	堀井裕介 (第2分団第1部)
2番員	大賀則和 (第3分団第2部)
3番員	森下将成 (第3分団第3部)
4番員	家田圭市 (第3分団第2部)



優勝した第2分団第2部（下恵土）



体験ブースの様子

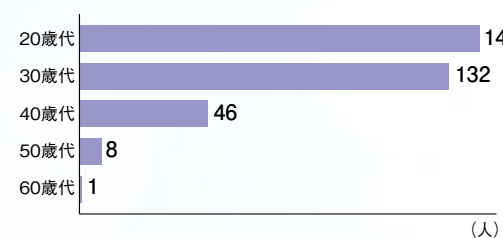
消防操法とは消防団の訓練の一つです。消防ポンプ車や消火用の器具を使うた火災現場での基本的な動作の習得を目的に行われています。設置された防火水槽からポンプ車に水を揚げ、ホースを伸ばし、火災現場を想定した的を目掛けて放水・消火し、撤収するまでの一連の手順を行います。大会では的に当たるまでの所要時間、安全確認などの動作やチームワークなどを競います。

消防操法とは

会場では来場者も楽しく過ごせるように、子ども向けに水消火器を使った消火体験や、消防服を着て写真撮影ができるブースなどを設けました。ブースは女性消防団員が運営し、会場を訪れた多くの子どもたちが地域の防災に触れるきっかけになりました。

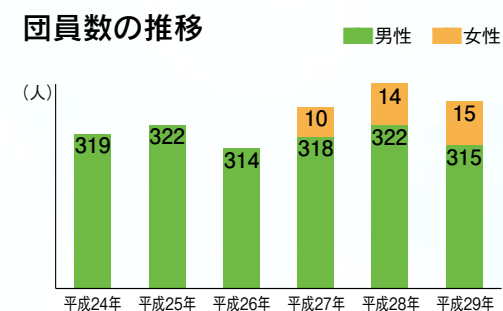
大会では第2分団第2部（下恵土）が優勝を果たし、8月6日（日）に瑞穂市で行われる県大会への出場が決まりました。

年齢別団員数



団員の8割以上が20～30歳代で、40歳代以上の多くが団長や部長などの幹部です。

団員数の推移



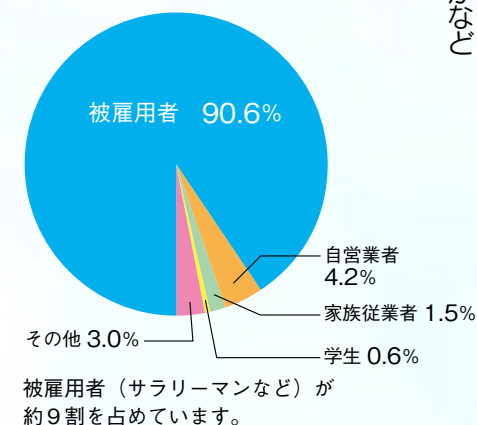
全国的には減少傾向ですが、可児市は一定数を保っています。

原因別火災発生件数

	たばこ	こんろ	ストーブ	電灯配線など	火遊び	マッチライター	たき火	火入れ	放火疑い	電気機器など	取灰	その他	不明	計
平成24年		2			2		2	1	2	1		5	2	17
平成25年	1		2			1	5	1	2			7	14	33
平成26年		3	3	2	3	1	1	1	2			7	9	32
平成27年	1	3					1	1	1	2		7	7	23
平成28年					3					1	2	8	3	17

出典：可児市の統計

団員の主な職業



数値で見る消防団

どのような人が消防団で活動しているのかなど、可児市の状況を紹介します。